

こどもの病気 「急性中耳炎」

耳から鼓膜までが外耳道、鼓膜の内側が中耳です。中耳から耳管が鼻のほうにつながっています。中耳炎は、中耳の部分の炎症ですね。かぜのあとにつづけておこることが多い病気です。

滲出性（しんしゅつせい）中耳炎は、急性中耳炎とは別のものです。

- 原因：ほとんどはウイルスが、中耳腔に、はいってしまふことによっておこります。
- 症状：大きな子は、耳が痛いと訴えますが、あかちゃんでは、熱が続き、きげんが悪くなります。耳をさわったり、首をよくふったりすることもあります。中耳炎が進むと耳だれが出る場合があります。痛みはなくなりますが、かならず受診しましょう。
- 治療：痛み止めが出る場合があります。耳に直接いれる点耳剤を使うこともあります。耳鼻科で外科的に処置することもあります。細菌性の場合、抗生剤を処方されることもあります。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。）

- 病院へ行くタイミング：かぜの症状が長引く、熱が出る。耳をさわったり、痛がったりしたら、病院にいきましょう。
- いつから学校（保育所）にいったいいい？：熱があったら、次の日もやすませてあげましょう。痛みもなく、症状がおちついたら、大丈夫です。プールはお医者さんの許可をもらってからにしてください。
- おうちでできること：
 - 休む・・・家でゆっくりしていきましょう。
 - お風呂・・・熱が高くなければ、疲れが出ない程度に、さっぱりさせてあげるのかまいません。
 - お薬・・・症状がおちついたからといって、くすりを途中でやめないでください。

「滲出性中耳炎」とは

鼓膜の奥にしみだした液が、たまったままの状態です。熱や痛みはありませんが、耳の中の詰まった感じがしたり、きこえが悪いということになります。気になるようなら、耳鼻科を受診してみてもよいでしょう。

気になる症状 「耳の痛み」

突然夜中に、耳が痛いと訴えたとき、お母さんはびっくりするでしょう。多くは急性中耳炎です。危険な病気ではないので、がまんできるようなら、そのまま様子を見て、翌日に受診しましょう。常備薬としての解熱鎮痛剤の坐薬があるなら、お母さんの判断で使うことも可能です。急性中耳炎である場合が多いですが、それ以外に、耳そうじなどで傷を付けたりして外耳道に炎症が起こった急性外耳道炎、耳の中に虫やビーズなどの小さいものがはいった状態の外耳道異物などがあります。受診は、耳鼻科か、小児科か迷われることがあると思

いますが、お子さんの場合、全体の様子もみていただきたいので、まず、小児科で診断してもらうほうをおすすめします。